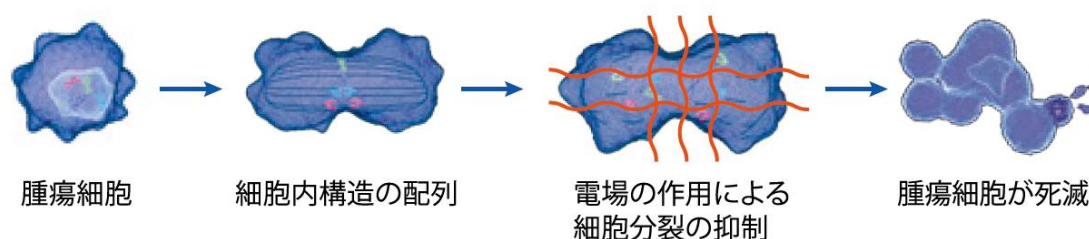


膠芽腫に対する腫瘍治療電場療法について

腫瘍治療電場療法（製品名：オプチューン®）は膠芽腫に対する新しい治療法として開発されたものです。この治療は脳内に特殊な電場を発生させて腫瘍増殖を抑制する、膠芽腫に対する新たな治療方法です。初回手術後に膠芽腫と診断されて、初期治療の放射線療法、それと併用して行われる化学療法（テモゾロミド）を終了した膠芽腫の患者さんに維持療法として使用される治療機器です。

膠芽腫の腫瘍細胞に電場を作用させた場合の意図される効果



※ノボキユア社資料より

オプチューン治療中の生活

オプチューン®は、電場を作り出す粘着性シートに取り付けられたセラミック製の電極パッド（アレイ）を、頭髪をきれいに剃った頭部に4枚貼り付けることで脳内に治療電場を作り出し、急速に増殖を繰り返す膠芽腫の細胞分裂を阻害することで、腫瘍細胞を抑えるように作用します。アレイは1週間に2回程度貼り替えます。一人でアレイを貼り替えるのは難しいので、治療協力者の補助が必要です。基本的に自宅で行う治療です。バッテリーで作動する携帯タイプの医療機器で、昼夜を問わず継続して長時間使用することができるように設計されています。可能な限りの継続的治療が推奨されるため、頭皮の副作用を避けて、できるだけ継続して（少なくとも4週間以上の継続的使用 / 使用時間率75%以上）治療を続けることが大切です。



画像提供；ノボキユア株式会社

有害事象

オプチューンの主な副作用は、アレイの貼付箇所の皮膚炎症です。臨床試験では約半数に皮膚障害が生じたことが報告されましたが、症状はいずれも軽度から中程度のもので、局所的な対応や治療を一時的に中断することで対処できました。化学療法などで見られる吐き気や食欲不振、血球数の減少などの全身性の副作用が少なく、体に負担の少ない治療法です。

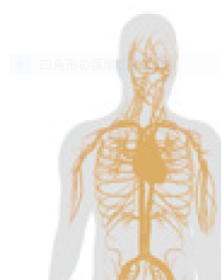
稀に頭痛、脱力、転倒、疲労、筋攣縮、皮膚潰瘍が生じることがあります。

腫瘍細胞を標的とする局所的な治療法



腫瘍治療電場療法

腫瘍を標的とした局所治療のため、脳や全身の正常細胞にほとんど影響を及ぼさない。



全身療法

化学療法などの薬剤が血流を通して全身に行き渡るため、全身の正常細胞に影響を及ぼしうる。

入院期間・費用は？

基本的に自宅で治療を行います。治療開始の時に機器の取り扱いについて外来で医師から説明します。機器のサポートはノボキユア株式会社が行います。

費用は**初発膠芽腫**に限り、保険診療の範囲内で治療が可能です。

※費用は高額療養費の対象になります。

健康保険や国民健康保険加入者が、同じ月内に同じ医療機関に支払う医療費の自己負担額（食事の費用・自費分は除く）が高額になった場合は、限度額の認定証の交付を受け、入院事務担当者にご提示いただくと、病院窓口での自己負担額が限度額までの金額となります。（70歳未満の方が対象で、健康保険組合や国保窓口に事前に申請が必要です。）

当院ではノボキユア社による認定講習を修了したスタッフがおり、積極的にオプチューン®（NovoTTF-100A システム）治療に取り組んでおります。